

STEP 01 CHOOSE THE BASE  
3つのBaseから選択する。

STEP 02 CHOOSE THE SPACE  
空間パーツを選択する。

STEP 03 CHOOSE THE STORAGE  
収納アイテムを選択する。

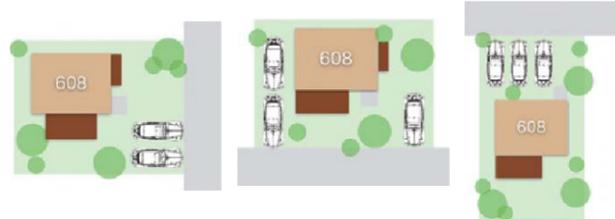
STEP 04 CHOOSE THE +I  
+Iアイテムを選択する。

### 南に大きく開き、明るいLDKを配置しやすい、開放的なベース



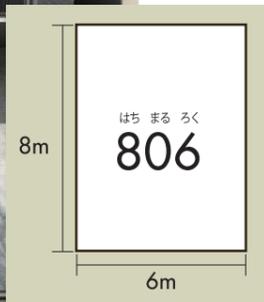
東西に広いこのベースは、奥行きを短くすることでしっかり日差しを部屋の奥まで取り入れることができます、とても明るいプランになります。敷地によっては、南北に大きな庭が取ることができ、明るいLDKとの組み合わせで、非常に開放的な空間を作り出すことができます。

#### こんな土地に最適



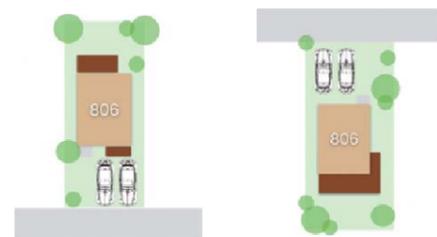
南に大きく開いているため、どの面からの道路付き敷地でも、庭や駐車場と共にバランスよく配置できます。

### 間口が狭い分譲敷地にも対応できる、適応幅が広いベース



分譲地によくある「間口の狭い」土地にも対応できます。奥行きが長くなることで暗くなりがちな北側にも、OMソーラーによって暖気を送ることができるのもVOLKS HAUSの大きな特徴。空間パーツ構成では、南側を全面リビングにすることができるため、整ったプラン構成が可能になります。

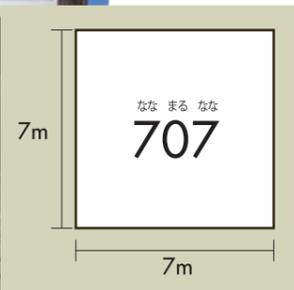
#### こんな土地に最適



間口の狭い「北道路」「南道路」の敷地でも、駐車場と庭を確保しながらバランスよく配置できます。

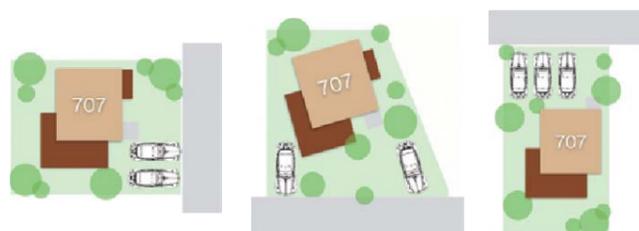
## STEP 01 CHOOSE THE BASE 3つのBaseから選択する。

### 方位や敷地に合わせて回転ができる、フレキシブルなベース



正方形の為、建物を回せばどのような道路面にも対応できます。太陽熱、光を考慮し、方位に合わせて建物を振ることがしやすいベースです。また、どこから見てもカタチが綺麗なのも特徴。切妻、片流れ、への字等、様々な屋根形状にもバランスよく適応できます。

#### こんな土地に最適

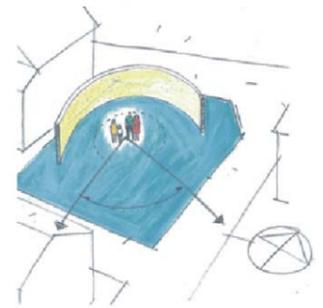


正方形の敷地はもちろん、台形の敷地に対しても、正方形の形をうまく利用して若干傾けることで、バランスよく配置できます。

### 建物を配置するコツ

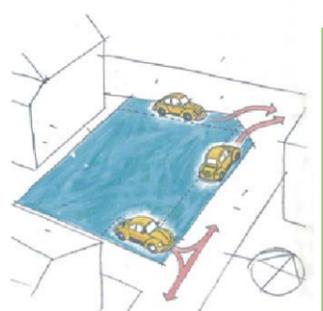
#### 1. まず敷地に「背中」を探す

フランク・ロイド・ライトは「先ず土地を見よ。土地がすべてを教えてくれる」といいました。土地を正しく読み取れば、おのずと設計はみえてくる、というわけです。けれども、それはそう簡単なことではありません。むしろ、設計にあたって最もむずかしい作業といえるのかも知れません。ここはとても肝心なところなので、たくさんの経験を積んだ専門家の判断を参考にして決定してください。敷地を見極める上で、一番のポイントにあるのは、その敷地の「背中」を見つけることです。言い換えれば「この敷地の中で、どの方向に向いていきたいのか」を決めることなのです。仮に北側に景観が得られ、西側にお隣の物干し台があれば、西側を「背中」にしたいと思います。



#### 2. かさばる「車」の処理を優先する

敷地にどう建物を置くのかを考えることを配置計画といいます。その一番最初に考えなければならないのが車のことです。敷地に家を配置しようとする時、これが結構難題です。車は、動いている時には役立つのですが、いつもは置いておかなければなりません。これが、やたら大きなスペースを食ってしまいます。さらにいえば、車は不器用な動きしかできません。運転手の技量にもよりますが、入れやすく、出やすい駐車場を先に確保すれば、通行している人達にも迷惑をかけることなく、毎日が苦痛でなくなります。よくある例では、無地乾燥になりがちな駐車スペースに、鉄道で使う枕木を敷いたり、車のタイヤ部分だけをコンクリートで仕上げ、ほかは芝生にしたりする等、様々な工夫が見られます。これらの工夫は、家族にとって楽しいスペースとなるばかりではなく、道行く人たちに好印象を与えます。



#### 3. ちょっと小さめの「ベース」を選ぶ

配置計画のコツは、ベースは要求される面積よりも、少し小さめのベースを選択するということです。少し小さめのベースを選ぶことは、外部からは、建物を土地にやさしくなじませる条件となります。その土地には、その土地が持つ独特の秩序があります。「向こう三軒、両隣り」をみながら、わが家の形態をここに描いて下さい。味も素っ気もなく、というのではなく、その土地だからこそその、味と素っ気を探してください。内部からは、住まい心地の要件である「広さ」と「奥行」の関係を、プラン上から追ってください。鼻が詰まった感じは避けたいわけで、少し延ばしたり、横に広げることで奥行や広さが得られます。むろん、敷地に余裕がなく、目いっぱい建てなければならない場合もあります。その場合は、窓の設け方などを工夫して「抜け」をつくるのが大切です。

